

中学校 第2学年	題材名	ギターを楽しもう「スカボローフェア」		
	教材名	「スカボローフェア」(イングランド民謡)	時間	5時間

■題材の目標

ギターの音色や奏法に関心をもち、Em・D・G・Aの4つのコードを用いた基本的な奏法を身につけて演奏する。また、リコーダーとアンサンブルすることにより、伴奏の役割や全体の響きとのかかわりを意識して、演奏を工夫する。

■学習指導要領との関連

A 表現 (2) 器楽 イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。

ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

【共通事項】音色、リズム、速度、テクスチャ

■教材観

「スカボローフェア」(イングランド民謡)

元は吟遊詩人などに歌い継がれていたイングランド民謡だが、1966年にサイモン＆ガーファンクルがカバーしたことにより一躍有名になった楽曲で、哀愁を帯びた旋律はアカペラで合唱されることも多い。Em、D、G、Aという比較的押さえやすい4種類のコードのみで弾くことができるので、ギターが未経験の生徒でも取り組みやすい教材である。また、4分の3拍子での簡単なストローク奏法による伴奏ができるので、主旋律をリコーダーで演奏してアンサンブルしたり、歌いながらギターを弾く弾き語りをすることで、伴奏の役割について理解を深めることもできる。

■ヤマハデジタル音楽教材「ギター授業」を使用した指導計画 (5時間)

※既に主旋律をリコーダーで学習していることを前提とする。

学習内容		めあて	指導上の留意事項
第一時	■ギターについての基礎知識を学ぶ。 ■4つのコードを学ぶ。	ギターの仕組み・演奏の仕方について学ぼう	・ヤマハデジタル音楽教材「ギター授業」(以下「デジタル教材」と記載)を提示しながらギターの各部の名称を確認し、実際にギターを持って基本的な構え方、ピックの持ち方を実践させる。 ・大型モニター又は各自のタブレット端末でデジタル教材を見ながらコードの押さえ方を確認し、実際に譜例を弾かせる。 ・4つのグループに分け、大型モニターにデジタル教材を映し、それぞれのコードをリレー方式で弾かせる。
第二時	■コードチェンジのコツを学ぶ。	コードチェンジを覚えてギターを演奏できるようにしよう	・大型モニター又は各自のタブレット端末でデジタル教材を見ながらコードチェンジの方法を確認し、実際に譜例を弾かせる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、全員で「スカボローフェア」を付点2分音符で通して弾かせ、曲のイメージをつかませる。
第三時	■右手の奏法(ストローク)を学ぶ。 ■「スカボローフェア」を通して弾く。	右手の奏法(ストローク)を覚えて「スカボローフェア」を最後まで演奏しよう	・ストロークのリズムを3つ提示(付点2分音符、4分音符、4分音符と8分音符)。4分音符と8分音符のストローク奏法をデジタル教材を見ながら実践させる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、各自が自分のレベルに合わせて選んだリズムパターンで「スカボローフェア」を通して弾かせる。
第四時	■リコーダーとギターのアンサンブルで中間発表をする。	グループでパートや速さを決めて「スカボローフェア」のA	・リコーダーで主旋律の演奏を復習させる。 ・グループ(4～5人)に分かれて担当するパートを決め、各自タブレット端末のデジタル教材を使って自分の苦手な部分を練習させる。

		ンサンプル練習をしよう	・グループごとにアンサンプルの練習をさせ、互いの技術力向上や共に音楽を作り上げるためのコミュニケーション活動を支援する。 ・グループごとに中間発表させ、互いの進捗を確認させる。
第五時	■リコーダーとギターのアンサンプルで最終発表をする。	今までの練習の成果を生かし、グループで速さがそろったアンサンプルをしよう	・グループごとにアンサンプルの練習をさせる。また、ギター担当者に前奏を考えさせる。 ・グループごとに発表形式で演奏させる。その際、相互評価させ、自分たちの技能を客観的に捉えたり、アンサンプルする上でのポイントなどを考えさせるようにする。

■実際の指導

【教材】

「スカボローフェア」（イングランド民謡）※リコーダーとギターのアンサンプル

【授業スタイル】

一斉学習、個別学習（ペア学習）、協働学習

【使用する ICT 機器】

大型モニター、教師用 PC（もしくはタブレット端末）、ヤマハデジタル音楽教材「ギター授業」

※生徒用タブレット端末があれば個別学習（ペア学習）が可能

【主な ICT 活用とそのねらい】

- ✓ デジタル教材を使用することにより、コードの押さえ方など従来では分かりにくかったポイントを視覚的に理解することができ、動画に合わせて弾くことで単純な練習も楽しくなるとともに、自分の苦手な部分がより分かりやすくなる。
- ✓ 大型モニターにデジタル教材を映し、それに合わせて生徒に演奏させることにより、教師が机間を回って生徒のサポートをしたり評価したりすることができる。

【展開】

第一時

- ・学習内容：ギターについての基礎知識を学び、4つのコードの押さえ方を学習して弾く。
- ・めあて：ギターの仕組み・演奏の仕方について学ぼう
- ・配布物：ワークシート「ギターを楽しもう 1」（ファイル名：g04_sheet1）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
50分	■単元のめあてを確認する。 ギターを楽しもう「スカボローフェア」 ■生徒たちのギターに対する興味・関心の度合いやギター演奏経験を確認する。 ■本時の学習のめあてを確認する。 ギターの仕組み・演奏の仕方について学ぼう ■最終目標の確認をする。 （「スカボローフェア」を通して聴かせる）	・Exercise 17 の「練習」画面	★教師用 PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。

展開 30分 まとめ 10分	■ギターの各部の名称について学習する。 (ワークシートに記入) ■ギターの構え方やピックの持ち方などを実践する。 (ワークシートに記入) ■「Exercise 1: 全開放で1小節弾いてみよう」を全員で弾く。 ■ダイアグラムについて学習する。 ■Em、D、G、Aのコードの押さえ方をそれぞれ大型モニターを使って説明し、各自のタブレット端末で確認しながら演奏する。 (ワークシートに各コードの押さえ方を記入)	・予備知識：ギターについて ・予備知識：ギターの構え方 ・Exercise 1 ・予備知識：ダイアグラムについて ・Exercise 2～5	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。 ★時間があれば、各自のタブレット端末を見ながら個人練習。
	■4つのグループに分かれて、それぞれ1つのコードを担当し、リレー方式でデジタル教材に合わせて演奏する。 ■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。	・Exercise 6	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。

第二時

- ・学習内容：コードチェンジの方法を学び、よりスムーズにチェンジするコツをつかむ。
- ・めあて：コードチェンジを覚えてギターを演奏できるようにしよう
- ・配布物：ワークシート「ギターを楽しもう 2」(ファイル名：g04_sheet2)

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
50分	■本時の学習のめあてを確認する。 (ワークシートに自分の授業のめあてを記入) コードチェンジを覚えて ギターを演奏できるようにしよう ■第一時の復習としてデジタル教材に合わせてコード (Em、D、G、A) を全員で弾く。	・Exercise 2～5	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。
	■コードチェンジの方法をそれぞれ大型モニターを使って説明し、各自のタブレット端末で確認しながら演奏する。 ・Em ⇄ D ・Em ⇄ G ・Em ⇄ A ・G ⇄ D	・Exercise 7 ・Exercise 8 ・Exercise 9 ・Exercise 10	★時間があれば、各自のタブレット端末を見ながら個人練習。
	■ゆっくりとしたテンポで「スカボローフェア」を通して付点2分音符で弾いてみる。 ■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。	・Exercise 17 の「練習」画面	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。

第三時

- ・学習内容：右手の奏法（ストローク）を学び、「スカボローフェア」を通して弾く。
- ・めあて：右手の奏法（ストローク）を覚えて「スカボローフェア」を最後まで演奏しよう
- ・配布物：第二時で配布したワークシート「ギターを楽しもう 2」を引き続き使用。

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10分	■本時の学習のめあてを確認する。 (ワークシートに自分の授業のめあてを記入) 右手の奏法（ストローク）を覚えて 「スカボローフェア」を最後まで演奏しよう ■第二時の復習としてデジタル教材に合わせてコードチェンジ (Em ⇄ D、Em ⇄ G、Em ⇄ A、G ⇄ D) を全員で弾く。	・ Exercise 7~10	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。
展開 30分	■右手のストローク奏法をそれぞれ大型モニターを使って説明し、各自のタブレット端末で確認しながら練習する。 ・ 4 分音符 ・ 4 分音符と 8 分音符 ■個人練習をする。 (リズムパターンとして付点 2 分音符、4 分音符、4 分音符と 8 分音符の 3 つを提示し、自分のレベルに合ったリズムで練習させる)	・ Exercise 11 ・ Exercise 12 ・ 生徒任意の Exercise	★各自のタブレット端末を見ながら個人練習。
まとめ 10分	■自分で選んだリズムパターンで「スカボローフェア」をゆっくりとしたテンポで通して弾いてみる。 ■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。	・ Exercise 17	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。

第四時

- ・学習内容：リコーダーとギターのアンサンブルで中間発表。
- ・めあて：グループでパートや速さを決めて「スカボローフェア」のアンサンブル練習をしよう
- ・配布物：第二時で配布したワークシート「ギターを楽しもう 2」を引き続き使用。

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10分	■本時の学習のめあてを確認する。 (ワークシートに自分の授業のめあてを記入) グループでパートや速さを決めて 「スカボローフェア」のアンサンブル練習をしよう ■リコーダーの演奏を復習する。	・ Exercise 17 の「練習」画面	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。

展開 30 分	■グループに分かれて担当するパートを決める。 ■各自タブレット端末のデジタル教材を使って、自分の苦 手な箇所を練習する。 ■グループごとにアンサンブルの練習をする。	・生徒任意の Exercise	★各自のタブレット 端末を見ながら練習。
ま と め 10 分	■グループごとに中間発表を行い、互いの進捗を確認する。 ■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。		

第五時

- ・学習内容：リコーダーとギターのアンサンブルで最終発表。
- ・めあて：今までの練習の成果を生かし、グループで速さがそろったアンサンブルをしよう
- ・配布物：ワークシート「ギターを楽しもう 3」（ファイル名：g04_sheet3）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10 分	■本時の学習のめあてを確認する。 今までの練習の成果を生かし、 グループで速さがそろったアンサンブルをしよう ■第四時の復習として「スカボローフェア」をアンサンブル で通して演奏する。	・Exercise 17 の「練習」画面	★教師用 PC（又はタ ブレット端末）を大型 モニターとつないで 提示。
50 分 展 開 35 分	■各グループでアンサンブルの練習をする。 （アンサンブルする時に注意することをグループで話し合 ってワークシートに記入する） ■ギター担当者は前奏をどのように演奏するか考える。 （ワークシートに記入） ■グループごとにアンサンブル演奏を発表する。ワークシ ートに他のグループの演奏についての感想を記入する。	・Exercise 17 の「練習」画面	★各自のタブレット 端末に合わせて練習。
ま と め 5 分	■ワークシートにギター授業全体の自己評価と感想を記入 する。		



「Smart Education System by Yamaha」のWebサイトでは授業づくりに役立つ授業モデルや掛図などの素材を無料でダウンロードできます。ブラウザで動作するデジタル教材の無料体験版もご用意しておりますので、お気軽に授業でお試しいただけます。ぜひご活用ください。

無料の
授業モデルやデジタル素材を
もっと活用
してみませんか？

「Smart Education System by Yamaha」のWebサイトはこちら！

yamaha ses

検索

<https://ses.yamaha.com/>

「Smart Education System by Yamaha」のお役立ちコンテンツ

新型コロナウイルス感染
拡大防止に配慮した
音楽の授業って…？

学校の新しい生活様式における
音楽授業や行事のアイデアは
こちらでご紹介しています。



音楽の指導でお悩みごと
はありませんか？

先生方のお悩み解決の
ヒントはこちらでご紹介
しています。

